

全員が教員免許状を取得した一期生を送り出して

こども教育学部 本山 益子

2020年4月にスタートしたこども教育学部は、今年3月に一期生94名を送り出した。入学と同時にコロナ禍となり、混乱の中でのスタートであったことが懐かしく思い出される。それでも、与えられた状況をサラッと受け入れ、逞しく、楽しく大学生生活を送り、卒業生全員が教員免許状を取得して巣立っていった。拍手である！

小学校教育コースは、仲間と励ましあい、先生方の熱心なサポートもあったおかげで、過去最高の教員採用試験合格率（78%）を達成することができた。一方、保育士資格に加えて、幼稚園教諭1種免許状の取得も可能になった幼児教育コースは、それにより進路の選択肢が広がった。実際、公立保育所（正規3名・講師2名）・私立幼稚園2名・認定こども園7名・私立保育園10名・その他の保育職（児童館・小規模保育園・放課後等デイサービス・児童指導員等）5名と多様な教育・保育職への就職を実現している。

本学部では「小学校教職課程」「幼稚園教職課程」を設置し教員を輩出しているわけであるが、今年度からは、小中英語教育コースの設置に伴い、加えて「中学校教職課程（英語）」と「高等学校教職課程（英語）」の課程も設置するに至った。このように学部で教職課程を設置するには、当然のことながら文部科学省による教員審査が実施され、教職課程の科目を担当するのにふさわしい研究業績の有無が問われる。さらに、認可された後も、担当授業科目のすべてにおいて研究業績を積み上げる必要がある。ちなみに、すべての大学の教職課程を担当する教員を対象として実施された、2018年度の「再課程認定」で提出が求められたのは、直近10年間の活字による研究業績であったことが蘇る・・・。

本学では、教員に「①教育活動②研究活動③学内運営活動④社会活動・地域貢献活動等」の4項目の活動が求められており、毎年、4項目を観点とした「教員活動成果報告書」と「教員活動計画書」を作成し提出している。したがって、当然、研究活動を実施していない教員はいない。ただ、文部科学省の教員審査においては、どんな研究でもいい訳ではなく、自身が担当している教職課程の科目に関連する研究業績が求められている。また、各課程においては、設置に必要な教員の人数も決められているので、担当教員として合格しカウントできない場合、教職課程の維持が難しくなる可能性も出てくる。教職課程の科目を担当する教員は、この点も意識し、自己の研究に取り組んでいる。

今回、投稿いただいた原稿には、自身の担当科目を大いに意識し、積み上げておられる研究もあれば、自身の研究領域を少し広げて着手された研究もあるように拝見した。本学の教職課程で学び、輝かしい進路を決定した一期生を送り出したこの機会に、私たち教員の研究活動と教員養成が、このようにつながっていることを改めて認識することになった。こども教育学部の教員として、引き続き、研鑽に努めていきたいものである。

